

課題番号4

課題名	<b>重点課題4 地産地消を支える農業者の育成と生産の振興</b> しゅんぎくの夏季安定生産技術の確立に向けて	
対象:	JA堺市大阪エコ農産物出荷部会 JAいずみの軟弱野菜生産出荷部会 JA大阪泉州軟弱野菜出荷部会	計画期間: H29~33 事務所名: 泉州農と緑の総合事務所
普及課題	活動方法	活動成果
①軟弱野菜(しゅんぎく)の夏季生産振興	①栽培管理技術の調査分析 ②夏季栽培に適した品種の選定 ③効果的な被服資材の検討(実証ほ設置)	①夏季栽培の技術指針を作成し、講習会等で周知。かん水方法を個別指導した1名は収量増加。 ②各地域、栽培方法に応じた品種選定について整理、情報提供。 ③今夏は高温(35度以上)が例年以上に連続し、昇温抑制効果が不十分であった。

総合評価 (コメント)
<p><b>A : 7名      B : 1名</b></p> <p>■単価が変動しやすく、他産地との競合も厳しい状況の中、夏季栽培が可能となることで農業者の育成と生産振興につながる課題と評価できる。</p> <p>■重要な技術解明につながる調査分析の項目において、品種、収量性や病害虫発生状況、ハウス管理上ポイントとなる事項等の調査も必要では。</p> <p>■モデル農家や実証農家を地域や組織ごとに設置すると、さらに拡大しやすくなると思う。</p> <p>■夏季しゅんぎく栽培農家数の増加を目標としているが、気候変化や栽培技術等の習得には一定の年月を要すると思われるため、取組み内容を目標数値に設定しては。</p> <p>■3年間篤農家の協力のもと栽培管理技術の調査分析をして、遮光資材についても産学協同でされていることは高評価。</p> <p>■相場が下がっていることや、高温が続いていることが不安材料と感じた。それも踏まえて無理のないように進めてほしい。</p> <p>■夏には虫害がつきもので、その対策も考える必要がある。客土以外で排水性の改善方法はないのか、先駆者との意見交換が必要。</p>

評価 A: おおむね適切である。 B: 部分的に検討が必要である。 C: 見直しが必要である。

普及指導計画への反映状況等
<p>■平成30年度は御指摘をいただいたハウス管理上ポイントとなる事項について調査を実施する。中でも特に重要と思われるかん水方法について、地域を変えてpF値を測定することで篤農家の技術を解明する予定である。</p>